TRIBUNE SHIKOKU

編集部では、読者の皆さんからの情報提供や投稿を募集しています。また当社HP上にて、NET-NEWS（￥8,400）を設け、最新情報を発信しています。

情報提供や購読希望の方はご連絡ください。

☎ (088)664-5004
FAX(088)664-4809
E-mail-tribune@mail.planning21.ne.jp

トリビューン tribuneしこく

昭和31年2月27日 第三種郵便物認可　第1619号 令和8年1月15日（木曜日）

《毎月5・15・25日発行》
発行所 ㈱トリビューンしこく
〒770-0874 徳島市南沖洲2丁目4-10
電話(088)664-5219　FAX(088)664-4809
年間購読料 7,500円
阿波銀行県庁支店/口座番号・普通0318279
徳島銀行県庁支店/口座番号・普通5283742
郵便振替口座/01650-6-22468
【掲載記事、写真等の無断転用を禁止します】

徳島のウォーターフロント「マリンピア沖洲」
全国のレースが楽しめる
競輪・オートレース場外車券売場
KEIRIN
Auto Race
サテライト徳島
TEL.088-677-5503
徳島市東沖洲2丁目8番地（マリンピア沖洲）

とりびゅーん・しこく

衆院選 展望 徳島選挙区 二区 二区

衆院の解散・総選挙がカウントダウンに入った。自民現職が議席を死守するか。立憲民主と新党結成した公明票はどう動くのか。参政党旋風は吹くのか。徳島一区・二区の焦点を探った。（文中敬称略）。

公明票がどう動く?! 徳島一区

仁木博文（59）自民現職
髙橋永（50）立憲民主現職
吉田知代（50）日本維新の会

議席死守できるか 自民現職

昨年参院選で爆発した「参政党旋風」が再現するかもポイントだ。昨年七月参院選に出馬した金城の一区得票数は四万二一九一四票。昨年同様自民票を侵食するか。

阿南市議選 鳴門市議選で公認候補を当選させ、地方選挙でも勢力を伸ばしつつある参政党。神谷代表は県都徳島市のある徳島一区での候補擁立をめざし、人選を進めている。

参政党が参戦すれば、仁木にとっては公明票離反とあわせてダブルパンチとなる。頼りは高市人気。高市首相来県で自民組織を引き締め、浮動票を呼び寄せることができるか。

野党系無所属から自民に鞍替えした仁木。前回選挙では自民県連と個人後援会の選挙スタイルがマッチせず、自民県議からブーイングが上がるなどぎくしゃくした寄合所帯選挙となった。

総裁選で高市氏を支援し、厚労副大臣に留任した仁木。政権政党所属議員の政治実績をアピールし、挙党一致体制で「公明票ロス」をどれだけカバーできるかがポイントだ。

公明とのタイアップ選挙をフル稼働できるか、髙橋

高橋は前回、選挙区で落選。比例復活した。立憲民主や連合等の組織票が頼り。三木武夫の孫だが、秘書がころころ代わるなど個人後援会はパワー不足。ブランド力を生かし切れていない。

昨年十一月から県OBや飲食店経験者が秘書に就任。事務所体制を一新したが、「本人も初心者マーク議員。政治シロウト事務所で県民の期待に応えられるのか」と不安の声も。

新党結成で公明票の上積みが期待されるが、立憲民主関係者からは「地方に相談なく勝手に決められた。中道改革連合、立憲民主、公明の三政党が存在するなんてよくわからない」との声も。

高支持率の高市自民の攻勢を公明とのタイアップ選挙で凌げるか。比例名簿は公明が上位独占するため、「選挙区で苦戦すれば、比例復活も覚束なくなるのでは」と懸念されている。

徳島一区に候補擁立せず、一区の髙橋支援に一極集中する立憲民主。公明とのタイアップ選挙をフル稼働させ、連合勢力をいかに糾合できるかが焦点だ。

自民と連立を組んだ日本維新の会の元職、吉田は厳しい戦い。かつてのアピールカは色褪せ、自民VS中道改革連合の戦いに埋没しそうだ。

再現されるか「参政党旋風」

キャスティングボード握る公明票

焦点は公明票の動き。自民との連立を解消し、立憲民主と新党「中道改革連合」を結成した。創価学会を支持基盤とする宗教政党がキャスティングボードを握りそうだ。

一区の公明票は令和六年十月衆院選で二万四、五五八票、令和三年十月衆院選で二万八九五五票、平成二十九年十月衆院選で二万五三四三票。平均約二万五千票だ。

前回令和六年衆院選の仁木と髙橋の差は三万五〇七票。二万五千の公明票が自民から立憲民主にごっそり流れ込むと単純計算すれば、髙橋が新党効果で仁木を上回ることになる。

単純計算で測れない公明票の行方

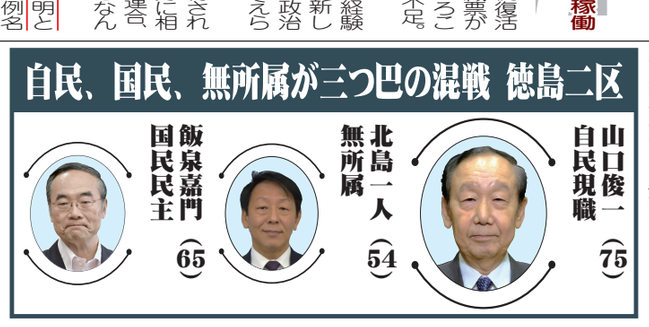
公明票の争奪戦が鍵を握るのは複雑だ。新党結成は地方の意向を無視の東京サイドの「押し付け新党」。公明、立憲民主の地方組織にとっては問答無用の「いきなり新党」だ。

公明、立憲民主は前回衆院選で「政権与党VS野党」というスタンスで対峙した。東京サイドから新党でのタイアップを求められても、「昨日の敵は今日の友」と豹変できるのか。

公明と自民には腐れ縁がある。自公連立政権が長年続き、県内の自民、公明も国政選挙、知事選挙で共闘関係を継続した。長年の腐れ縁をすっぱり解消できるのか。

公明・創価学会の集票マシンが百%稼働するかも疑問だ。選挙区から撤退し、比例代表一本勝負の公明。選挙区選挙はいわば他人事。「昨日の敵」の選挙支援に本気で汗をかくのか。

自民、国民、無所属が三つ巴の混戦 徳島二区



山口俊一（75）自民現職
北島一人（54）無所属
飯泉嘉門（65）国民民主

共産は候補擁立を検討中だ。

安定した政治力と実績をアピール、十三選目指す山口

自民現職の山口が十三選目指す。自民県議の北島が参戦。保守分裂選挙になった。前回落選し、政界引退宣言した元県知事の飯泉も国民民主公認でリベンジ出馬。三つ巴の激戦になりそうだ。

情勢一変させた 中道改革連合

山口は前回同様、党規則で比例重複立候補ができず、選挙区一本の背水の陣選挙。自民徳島を代表するベテラン政治家としての実績と安定した政治力をアピールする。

党財務委員長として党の要職をこなす。郵政造反組として冷や飯を食ったが、政策能力が評価され、復権。国会運営や野党対策に不可欠な重鎮議員として存在感を発揮している。

自己PRの派手なパフォーマンスとは無縁だが、国と徳島県を結ぶパイプ役として堅実な政治力を発揮している。交付金や補助金など予算獲得で山口の恩恵を被った首長は多い。

前回は知事選に落選した飯泉の挑戦をはねつけた。保守分裂選挙となった今回、北島、飯泉の多重攻撃を凌ぐことができるか。十三選すれば、衆院議長の最右翼候補だ。

新人候補のインパクト打ち出せるか、北島

北島は満を持しての出馬。前回も出馬を検討したが、見送った。県議一期目。国政転身を期待する支持者の声に押されて決断した。父や祖父も県議の政治家ファミリー。県議会では第二会派の自民党県民会議に所属。野党的立場から後藤田県政にチェック機能を発揮。家業である建設業の専門知識を生かし、新ホール問題を鋭く追及した。

初の国政選挙挑戦だが、知名度決戦のため、準備不足はあるまい。大票田の地元・板野郡や鳴門市でどれだけ得票できるかが焦点だ。自民山口の岩盤支持層に風穴を開けられるか。

選挙区内に散らばる県民会議所属の同僚県議のサポートが注目されるが、公認候補が相手だけに、どれだけ隠密支援が期待できるか。見つかれば党規違反で懲罰もの。

衆院議員十二期の山口、知事五期の飯泉を相手に回しての選挙だけに、いかに国政初挑戦の新人候補のインパクトを打ち出し、浮動票を引き寄せるかが焦点だ。

「政界引退」宣言を反故、大義なきリベンジ出馬、飯泉

飯泉は大義なきリベンジ出馬だ。前回は山口に約三千票差で敗れ、政界引退を宣言した。自らの言葉を反故にした形振り構わぬ政治行動が「呆れた厚顔無恥だ」と失笑を買っている。

前回は国民民主推薦の無所属で出馬、落選。「国民民主の公認だったら、比例復活当選していたのに」と悔やまれた。前回の教訓を生かした公認出馬だが、状況は甘くない。

「公認問題は国民民主県連で協議する予定でしたが、協議前に党本部が一方的に発表。『そんな話聞いていない』と反発を招いていました」（国民民主県連関係者）。

吹くか参政党旋風

見〜つけた!! 街角美人 No.159

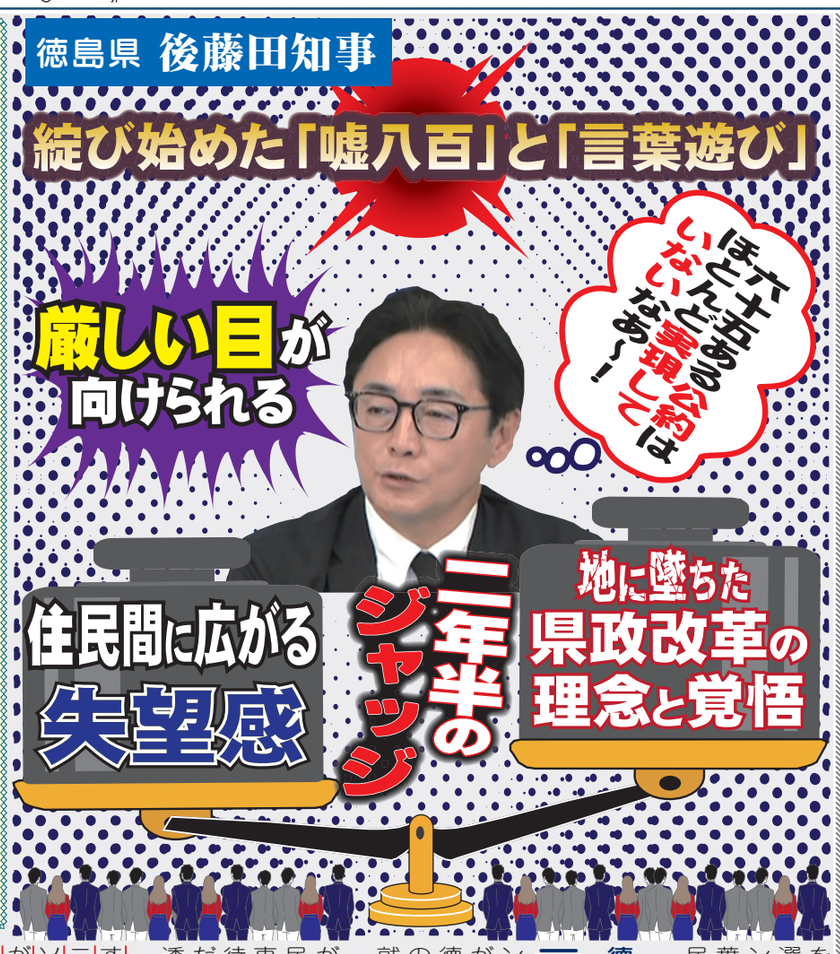
大阪の複合ビルで出会った街角美人。名前は渡邊愛さん。プロのドラマーだ。ドラム演奏のほか、パーカッションやボーカルもこなす。

ドラムは十四歳からはじめ、音楽学院卒業後、紙ふうせんなど様々なバンドのバックミュージシャンとして活動した。

歌のお兄さんで知られる新井宗平さんのバック演奏では、子ども向けの音楽にも挑戦した。二児の母親。子育てにも奮闘するママさんドラマーだ。

徳島県 後藤田知事

綻び始めた「嘘八百」と「言葉遊び」



「徳島新時代」を掲げてスタートした現在、県政改革の理念や哲学、覚悟はフェードアウト。知事選で打ち出した「徳島新時代プロジェクト」は単なるお題目だったのか。後藤田知事の「嘘八百」と「言葉遊び」の数々…。

「知事選公約は言葉遊びだったのか」、広がる失望感

「徳島再生」を訴えてデビューした後藤田知事。戦略のキャッチフレーズを標榜。「徳島の魅力を最大化する」と徳島県発展の未来戦略を網羅した。

二年半を過ぎた現在、主な実績は最低賃金のアップと国際定期便ベースは、魅力度UP、安心度UP、透明度UPを打ち出した「スリーUP」の徳島新時代プロジェクト。「ずっと居たいケン」「いつも帰りたいケン」「みんな行きたいケン」を誘致したくらい。「知事選で広げた後藤田ビジョンの風呂敷は嘘八百の言葉遊びだったのか」と県民を失望させている。

いつの間にか消えた、徳島-成田LCC公約

言葉遊びの一つが「徳島観光復活ビッグバン」だ。「全国と世界と繋がる徳島へ」とアピール。徳島-成田、徳島-タイのLCC（格安航空便）就航を打ち出した。

四国四県で成田LCCがないのは徳島だけ。県民間に「片道約一万円で東京にいけるのか」と期待感が広がったが、いまだ実現できず、県民は肩透かしを食らっている。

ソウル便就航をアピールする後藤田知事だが、県民ニーズが高いのは成田便。ソウル便は主に観光目的だが、成田便は観光、ビジネス、遊び等多目的。優先順位は成田便が上だ。

インバウンド客誘致の交流戦略では実績にカウントされるソウルLCCだが、県民生活の利便性向上のプラス効果は少ない。どれだけの県民がソウルLCCの恩恵を被っているのか。

タイのバンコクLCCも実現のメドは立っていない。見込みがないなら、正直に県民に説明すべきだ。放置したままでは「選挙対策の打上げ花火だったのか」と顰蹙を買うだけだ。

空回りする「高度化・近代化」公約、徳島中央卸売市場

「徳島新時代に高度化・近代化が必要」と訴えた徳島中央卸売市場の老朽化対策も放置状態だ。県と徳島市の協調事業だが、雨漏り対策など施設改修で年間約三千万円が消えていく。

最大の問題が「コールドチェーン（低温流通体系）」の脆弱さ。鮮度管理が甘い。冷蔵車で運び込まれた生鮮食品が冷蔵庫が少ないために市場内で野ざらしにされている。

移転先としてマリンピア沖洲の公有水面が上がるが、埋立てに約十年かかる。現地移転も選択肢だが、徳島市が調査に着手する段階。市場リニューアルのメドは立っていない。

タイへ徳島の農産物を売りこむ後藤田知事だが、県民に生鮮食品を提供する食材市場は「ポンコツ市場」のまま。「高度化・近代化が必要」と訴えた選挙公約が空回りしている。

言葉遊びで誤魔化す香港便の赤字補填

透明度UPも言葉遊びだ。香港便の運航会社に赤字補填したが、補填金額や関連資料は非開示。挙句は「赤字補填ではない。運航支援だ」と強弁する有り様。

香港便は「金で呼んだLCC」だった。補助金要綱を変更し、運航経費から運賃収入を差し引いた金額を補助金として航空会社に交付した。明白な赤字補填だ。

補填金額や航空会社との契約内容は県民の公文書請求だけでなく、県議会にも非開示だった。県議会からは「なぜ公表しないのか」と批判の声が相次いだ。

「県議会には秘密会がある。議事録にも残らない、プレスも出て行ってもらう、セニターも消される。それだったとしても言えないということか」（経済委員会・仁木県議）。

「掛かる経費は同じなので、搭乗率によって県が出すお金が変わってくる。そういう支援について、良いものか、悪いものか、そういう話は出てこなかったのか」（経済委員会・北島県議）。

補填金額や契約内容の非開示を問う仁木、北島県議に対し、高木観光誘客課長は「航空会社との守秘義務があり、答弁を控えさせて頂きたい」の一点張りだ。

守秘義務に拘る県だが、香港便の運航会社は「二年以上」という運航期間の取り決めを反故にし、昨年九月末で撤退した。行儀の悪い運航会社に義理立てする必要はない。

県が民間企業等に交付する補助金の実態は原則公開だ。県のHPには補助金の交付先や金額が年度別部局別で掲載されている。運航支援補助金も例外扱いせず公表すべきだ。

任意団体（徳島空港利用促進協議会）使い隠蔽する公金の使途

赤字補填金額や契約内容など情報非開示がクローズアップされる国際定期便の運航支援補助金。最大の問題は情報の「非開示」ではなく、情報の「隠蔽」だ。

運航支援補助金は県の補助金要綱に従って交付されるが、国際定期便の場合は航空会社に直接交付されず、「徳島空港利用促進協議会」という団体が中間に入っている。

協議会は徳島市や松茂町、航空会社や旅行会社など官民で構成する任意団体。事務局は県観光誘客課にある。補助金を民間企業にぱら撒くトンネル団体だ。

県は国際便運航支援の補助金を一括して協議会に交付し、協議会が航空会社や旅行会社等に支払う。香港便の赤字補填補助金も協議会から運航会社に支払われている。

県の公文書に残るのは県が協議会に交付した補助金に関する文書だけ。協議会が運航会社に支払った支援金に関する文書は県の公文書ではなく、情報公開の対象外だ。

任意団体を介在させ、航空会社や旅行会社への補助金交付実態をベールで覆い隠した徳島県。トンネル機能を持つ任意団体を使った補助金交付実態の隠蔽が指摘できる。

謙虚な気持ちで精査すべし、公約の実現度

この任意団体を使った公費支出の隠蔽は、飯泉知事が記念オケ事業で行った手口だ。飯泉元知事は任意団体を使い、懇意の女性社長に約八億円の公費を流していた。

知事選公約で「記念オケの真相究明」を掲げた後藤田知事だが、やっていることは飯泉元知事と同じ。県政改革や情報公開は、行動が伴わない嘘八百の言葉遊びだった。

二年半が過ぎ、知事選で広げた大風呂敷の綻びが見え始めた後藤田知事。県民目線や説明責任をアピールするなら、県民の知る権利を尊重して、県費の使途実態を事実に即して開示すべきだろう。

あなたの情報大募集!!

秘密厳守
守秘義務の徹底で情報提供者の方を必ずお守りいたします。

本紙記者が取材し、公益に反する問題点を徹底追及します。情報提供は本紙HPの情報提供フォームの他、メール、FAXでもお受けします。メールの場合は「返信先アドレス」をご記入ください。G-mailでも構いません。

「身元がバレるのでは」と懸念されるかも知れませんが、情報提供者のプライバシーは厳守しますので、ご安心ください。

社会に警鐘を鳴らす内部告発や情報提供をどしどしお寄せください。

〒770-0874
徳島市南沖洲2丁目4-10
㈱トリビューンしこく編集部
FAX：088-664-4809
TEL：088-664-5219
Eメール：tribune@mail.planning21.ne.jp
本紙ホームページ内の［情報提供］からも投稿できます。

購読料：年間 8,400円
トリビューン・電子版 tribune.web
購読申し込み頂くと、スマートフォンやタブレット、PCで最新号の閲覧ができます。ネットニュース（速報）もトリビューン電子版で。
お申し込みはHP www.planning21.ne.jp/tribune/ の申し込みフォームから

内部告発が暴いたブラック体質と不正

ザ・チェック 徳島商工会議所

川島会頭　上田専務

長時間労働で徳島労基署が立ち入り調査

放漫運営の闇が暴かれている。徳島商工会議所だ。約四億円の公費補助金を得て商工業者を支援する地域総合経済団体だが、ブラック企業体質を指摘する内部告発で揺れている。

ブラック体質の一つが、職員の長時間労働だ。一部課長と係長に業務が偏重。土日返上の休日出勤が常態化。年末年始も休めない過酷な労働環境に置かれているという。

長時間労働は数年前から続いているが、部長や専務は見て見ぬ振り。課長と係長は約一年前から専務に直訴したが、対応なし。事態を重く見た職員有志らが労基署相談に踏み切った。

労基署は昨年十一月から立ち入り調査を開始。タイムカードやPCログを持ち帰り、一月下旬から職員のヒアリングを行う予定だ。企業を指導する会議所が労基署のチェックを受ける異例の事態に発展した。

マクドナルドでは管理職とみなされた店長が「残業代払え」と会社を訴えたが、徳島商工会議所もマクドナルド同様、名ばかり管理職が長時間のサービス残業を強いられていた。

問われるのは労働契約法違反。同法では使用者に対し、安全配慮義務として、労働者が生命、身体等の安全を確保して労働できるよう配慮することを求めている。

土日返上で仕事をこなす徳島商工会議所の「名ばかり課長」は県外出張から帰った夜、疲労困憊のあまり、自家用車運転中に電柱に正面衝突する事故を起こしている。

浮かび上がる放漫運営、低下する職員の士気

一部職員が過酷な長時間労働を強いられ、労基署が調査に動いた徳島商工会議所。浮かび上がるのは放漫運営、役職者が組織の業務や職員の労務をマネジメントできていない。

「組織内にお日様西西体質が蔓延しています。補助金で給料が保証されていますから、関心はいかに楽して給料をもらうか。『会員企業のため』というお使命感は皆無です」（内部告発）。

マネジメント機能と職員のモチベーションが低下し、組織的な機能不全に陥っているということだ。象徴事例が「テンプラ」と呼ばれる経営指導件数の水増し疑惑だ。

会議所職員は経営指導で会員企業を巡回したり、窓口で相談を受けたりしているが、巡回件数や相談件数が増えると、県からの補助金が増える仕組みになっている。

この巡回件数や相談件数を水増しして県に報告。補助金を不正に貰っているということだ。

令和六年度の巡回件数は一、三七二件だが、内部告発によると、嘘っぱちの数字だ。

県OBではなく、プロパー職員や外部民間人を、問われる専務人事

昨年十一月に川島ホスピタルグループの川島周会長が会頭に就任、川島体制がスタートした徳島商工会議所。組織再生が期待されているが、組織内に巣食う病巣は放置されたままだ。

「専務らが新会頭に徳島労基署の立ち入り調査等問題点を報告していないのか、川島新会頭からは組織運営の改善に向けた指示は何もなく、旧態依然のままです」（内部告発者）。

動きがないこともない。マネジメント能力が問われる上田専務の辞意表明だ。川島会頭や元会頭らに「三月末で辞めたい」と伝えているという。理由は「一身上の都合」のようだ。

組織運営を担う専務ポストは県OBの指定席。人選は会議所ではなく県が行う。上田専務の辞意表明を機に会議所議員からは「県の天下り人事」の見直しを求める声が上がる。

「本来は業務に精通したプロパー職員を登用すべきです。職員の士気も上がります。県OBの腰掛け専務には求心力がさしてプロパー職員もついていきません」。

医師で商工業界とはなじみの薄い川島会頭。プロパー職員の抜擢や商工業に精通した外部民間人材の登用など思い切った「専務人事」で会議所改革に取り組むべきだろう。

「職員一人が年間一九七回企業を巡回したことになります。自分で様々な施策を結びつけることをしない職員では不可能です。大半の職員は巡回指導など行わず、会員の声を積極的に聞くこともせず、机に座っているだけです。それが実態です」。

改革できるか 川島新会頭

隙間の声

牟岐町で開催された「釣〜リズムフェスティバル」。釣りをテーマにした観光イベントだが、「イベントも結構だが、子育て環境の充実など地道に人口減少対策も充実すべし」との声が。

「釣〜リズムフェスティバル」は釣りをテーマにしたトークショーやステージショー、花火などを楽しむ祭典。今年はみなみ阿波観光使の赤井英和氏もたっぷり鍋まりを盛り上げた。

「イベントは町内外の参加者で賑わいますが、残念ながら一過性。町内からは「人口が増える持続可能な対策にも力を入れるべきでは」との指摘も上がっています」（牟岐町民）。

一例が海部病院の産婦人科のドクター確保。医師不足で現在休止中。「子どもが産めない県立病院」になっている。産婦人科医の外来診療は月、水、金の週三日だ。

「安心して子どもが産めないので、人口が増えるわけがないですよ。枡富町長も仁木博文厚労副大臣に頼むなどして海部病院の産婦人科医確保に取り組むべきですよ」（牟岐町民）。

仁木厚労副大臣は産婦人科医で、選挙区は牟岐町を含む徳島一区。「日本を治療する」の公約を実現して、海部病院の周産期医療体制を充実すべきだ。

牟岐町の昨年一月の人口は二、四二四人。一年間で一五一人減っている。令和六年一年間の死亡者数は一一〇人で、出生者数はたった七人。人口が減るのも当然だ。

人口戦略会議の予測では二〇五〇年の人口は一、三八一人。消滅可能自治体にカウントされている。町財政も厳しい。町の借金は六三億円と六八億円の一般会計予算と同規模だ。

一過性の釣〜リズムイベントを後援する枡富町長。「町を消滅させた町長」と汚名を着せられないためにも、同じ選挙区の仁木厚労副大臣と共に安心して子どもを産めるまちづくりに労を惜しまず汗をかくべきだ。

「子どもが産めない町」の汚名返上すべし

枡富町長

人口減少対策問われる枡富町長

平成六年の死者数110人、出生数はたった7人　牟岐町

徳島市内の老舗建設業X社が経営破綻説。下請け業者間で話題を呼んでいる。新年に入り、会社事務所を閉鎖している。負債総額は約六億円。

生活保護費国庫負担金の過大請求を市議会が調査中の徳島市。『問題を令和二年に遠藤市長に内部告発した』と証言した森本課長に対し、遠藤市長は「覚えていない」と証言。もし市長が内部告発を放置していたなら、公益通報者保護法に抵触する恐れ。

阿波市、上板町との共同処理をやめ、単独でごみ処理を行う板野町。現実的な選択肢は民間委託だが、残された時間は約二年。『民間施設に搬出するごみの保管施設整備を二年でできるのか。できなければ家の前にごみが溜まるだけ』と懸念の声。